

検温も聴診も撮影も「これ1台」で、遠隔診療を支援する小型・軽量の医療機器

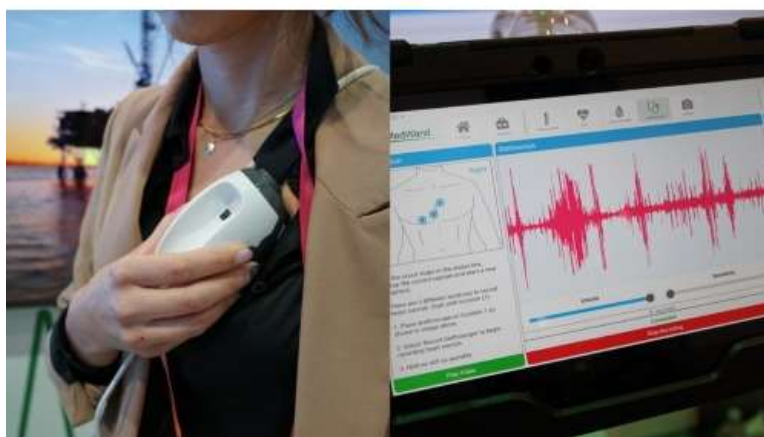
1/10 日経ビジネス

米 MedWand Solutions は、2023 年 1 月 5 日（米国時間）にテクノロジー見本市「CES 2023」でメディア向け説明会を開催し、自宅で生体データを取得できる小型の医療機器「MedWand」を紹介した。MedWand は米食品医薬品局（FDA）による認可を受け、2022 年 8 月から販売を開始した新製品だ。遠隔医療などを手掛ける医療機関に販売し、患者に使ってもらう。



1台で複数の生体データを取得できる小型の医療機器「MedWand」

MedWand は 1 台で深部体温や血中酸素飽和度、脈拍などの複数の生体データを測定できるほか、聴診器の機能を持つ。さらに、耳や咽頭、皮膚の画像を取得できるカメラも搭載している。こうした多機能を持ちながら、質量は 170g 未満だという。外形寸法は長さが約 11.5cm、幅が約 5cm、高さが約 6cm だ。



MedWandを使って聴診している様子とその結果

新型コロナウイルス感染症の拡大で遠隔診療の普及が進んでいるが、遠隔診療は対面診療と比較して得られる患者の情報が限定的な場合が多い。自宅で取得した生体データを医師と共有できれば、遠隔診療の質向上が期待できる。MedWand で得たデータは既存の電子カルテや診療管理ソフトウェアに簡単に取り込めるという

移動中の利用も想定

メディア向け説明会で MedWand Solutions の CEO（最高経営責任者）である Robert Rose 氏は「患者は医療機関に行かなければいけないという常識を打ち破りたい」と話した。遠方にある医療機関に通いにくい場面の他にも、船や航空機などで移動している最中の利用も想定しているという。



MedWandを使って皮膚の画像を撮影した様子

同社は MedWand の他にも、患者の状態をモニタリングするソフトウェアの開発も手掛けている。将来的には、MedWand で得たデータを AI（人工知能）で分析するプラットフォームの提供を目指す。